

証言

その時々

大岡昇平

ooka shobei



証言その時々

大岡昇平

講談社学術文庫

大岡昇平（おおおか しょうへい）

一九〇九年東京に生れる。京都大学仏文科卒。作家。小説『俘虜記』『野火』『武蔵野夫人』『酸素』『花影』『レイテ戦記』『幼年』他。評論及びエッセイ『在りし日の歌』『朝の歌』『昭和文学への証言』『コルシカ紀行』『私自身への証言』他。中央公論社版『大岡昇平全集』（全15巻）、岩波書店版『大岡昇平集』（全18巻）、筑摩書房版『大岡昇平全集』（全23巻）。



定価はカバーに表示してあります。

しょうげん ときどき
証言その時々
おおおかしょうへい
大岡昇平

2014年8月11日 第1刷発行

発行者 鈴木 哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽 2-12-21 〒112-8001

電話 編集部 (03) 5395-3512

販売部 (03) 5395-5817

業務部 (03) 5395-3615

装 幀 蟹江征治

印 刷 株式会社廣済堂

製 本 株式会社国宝社

本文データ制作 講談社デジタル製作部

© Teiichi Ooka 2014 Printed in Japan

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部宛にお送りください。送料小社負担にてお取替えします。なお、この本についてのお問い合わせは学術図書第一出版部学術文庫宛にお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。[R]〈日本複製権センター委託出版物〉

ISBN978-4-06-292252-4

目次

証言その時々

武藤貞一『戦争』	10
チャーチル『世界大戦』	12
武藤貞一『日支事変と次に来るもの』	18
俘虜記(抄)	21
チャーチル『第二次世界大戦回顧録』	36
記録文学について	37
『裸者と死者』	42
二万人の死者より二十人の生者を	46
白地に赤く	48
作家の日記(抄)	50
ルバング島を思う	62
ルバング島の日本兵	64
某月某日	68
戦争の思い出	71
「ニュールンベルグ裁判」を見て	76

私と戦争……………	82
紀元節の思い出……………	84
民の声と「大国」の利害……………	88
二十年後……………	95
この八月十五日……………	97
日本人とは何か……………	100
ビートルズとデモの間にて……………	104
フィリピン紀行……………	109
なぜ戦記を書くか……………	119
八月十五日……………	124
人間差別がたどる運命……………	127
東風西風（抄）……………	139
肉体は脆いもの……………	147
フィリピンと私……………	152
六十三、四の正月……………	160

グアム島の証人	163
時間	166
サクラとイチヨウ	170
ルバング島の兵士たち	184
私の中の日本人	193
ベトナムのこと	199
妄想的な現実	203
第二の戦後か	207
ルバング島の悲劇	214
戦後文学の二十九年	230
戦後三十年	235
視点（抄）	244
私と戦争	245
三十三年目の夏	249
へんな夏	253

成城だより（抄）	256
三十八年目の八月に	259
一兵卒として	276
成城だよりⅡ（抄）	280
『レイテ戦記』を直す	283
狡猾になろう	288
戦後四十年を問う	292
悪夢の構図	303
成城だよりⅢ（抄）	306
河口湖日記（抄）	308
あとがき	313

証言その時々

大岡昇平

講談社学術文庫

目次

証言その時々

武藤貞一『戦争』	10
チャーチル『世界大戦』	12
武藤貞一『日支事変と次に来るもの』	18
俘虜記(抄)	21
チャーチル『第二次世界大戦回顧録』	36
記録文学について	37
『裸者と死者』	42
二万人の死者より二十人の生者を	46
白地に赤く	48
作家の日記(抄)	50
ルバング島を思う	62
ルバング島の日本兵	64
某月某日	68
戦争の思い出	71
「ニュールンベルグ裁判」を見て	76

私と戦争……………	82
紀元節の思い出……………	84
民の声と「大国」の利害……………	88
二十年後……………	95
この八月十五日……………	97
日本人とは何か……………	100
ビートルズとデモの間にて……………	104
フィリピン紀行……………	109
なぜ戦記を書くか……………	119
八月十五日……………	124
人間差別がたどる運命……………	127
東風西風（抄）……………	139
肉体は脆いもの……………	147
フィリピンと私……………	152
六十三、四の正月……………	160

グアム島の証人	163
時間	166
サクラとイチヨウ	170
ルバング島の兵士たち	184
私の中の日本人	193
ベトナムのこと	199
妄想的な現実	203
第二の戦後か	207
ルバング島の悲劇	214
戦後文学の二十九年	230
戦後三十年	235
視点（抄）	244
私と戦争	245
三十三年目の夏	249
へんな夏	253

成城だより(抄)	256
三十八年目の八月に	259
一兵卒として	276
成城だよりⅡ(抄)	280
『レイテ戦記』を直す	283
狡猾になろう	288
戦後四十年を問う	292
悪夢の構図	303
成城だよりⅢ(抄)	306
河口湖日記(抄)	308
あとがき	313

証言その時々